

第6回 「堺市総合交通体系検討庁内委員会」阪堺線再生策検討専門家WG

- 1 開催日時 平成22年8月20日（金） 午前10時00分～午前12時00分
- 2 開催場所 堺市 本館B1F 職員会館 大会議室（東）
- 3 出席者 合計 13人
- 委員 大阪大学大学院 工学研究科地球総合工学専攻  
社会基盤工学部門交通システム学領域 教授 新田 保次（座長）  
大阪産業大学 人間環境学部生活環境学科 教授 塚本 直幸（副座長）  
神戸大学大学院 経営学研究科 教授 正司 健一  
広島工業大学 工学部都市デザイン工学科 准教授 伊藤 雅

—議事要旨—

《阪堺電軌(株)への支援策（協議案）の提示について》

- 塚本委員：堺市側と阪堺電軌(株)側の考えに差異はないのか。公有民営化の協議をするのはよいが、  
どういった前提であるのかを整理する必要がある、支援策についての協定書を作成する際にも十分気  
を付けたほうがよい。
- 伊藤委員：約50億円の支援に対する積算の根拠や支援の効果についての試算を説明できるのか。き  
ちんと説明できるようにしておかなければ、議会等でも対応できない。
- 事務局：利用者の拡大策については、過去の社会実験等の数値を参考に試算済みである。高度化によ  
る効果についてはまだ試算できていない。
- 正司委員：事業効果の試算も必要であるが、阪堺線がなくなることによって堺市がどうなるのかとい  
うことについて、説得力を持って説明できるようにする必要がある。

《ワークショップの開催報告について》

- 新田委員：今後、協議が整って具体的な話が出てくる中で、各節目でワークショップ等を積み重ねて  
建設的な意見をまとめる必要がある。1回だけで終わらないよう継続して行ってほしい。
- 新田委員：堺市の考え方の取り扱いはパブリックコメントの結果も含めて、最終のものを打ち出すと  
いうことでよいか。
- 事務局：基本的にはそのつもりである。

《阪堺線再生策検討専門家WGとりまとめについて》

- 伊藤委員：資料P36では効果がありそうで即時性の高いものをまとめているが、中長期的な取組みの  
一覧表があってもよいのではないか。資料P39で並行して取組む施策として突然出てくる。
- 事務局：資料P36の中に指摘の内容を含めることとする。
- 伊藤委員：資料P36で、市民協働として単にボランティアのみが示されているが、運営委員会にも関  
わっていくような表現を追加してほしい。
- 事務局：この段階で運営委員会という言葉が適切かという議論もあるが、そういった枠組みに関わる

というような表現とさせていただく。

○伊藤委員：また、継続的にワークショップを行うということも市民協働の取組みの一つかと思う。

○事務局：支援が開始された段階で継続的に関わっていくというような趣旨でよいか。

○伊藤委員：そのような趣旨でよい。

○新田委員：資料 P44 で専門家WGと庁内委員会は一揃いであると思うが、その説明がどれを指しているのかわかりづらい。専門家WGが主であるので、庁内委員会は括弧書きでよいのではないか。

○事務局：表現を工夫する。

○新田委員：以上の点を踏まえて、事務局側で修正していただきたい。